

担い手のライフサイクルに応じた支援

タイトル 青年新規就農者への取り組み

JA名 えひめ中央（愛媛県）

1 動機 （経緯）	J A 営農部門が青年新規就農者へ圃場研修をはじめとした J A 独自支援を本格化させているため、就農初期段階の経済的負担が大きい時期に、低利な融資等金融支援を金融部門として考える必要がありました。
2 概要	農業制度資金や要項資金以外で、農地購入等幅広い資金使途でかつ低利な融資商品になるよう現行のプロパー資金の要領改正を行い、基金協会等債務保証先にも保証条件の見直しを要望しました。
3 成果 （効果）	農地購入等でも公庫以外の選択肢が生まれました。審査についても早く、J A にとっても営農・金融部門が一体となった支援を行えるようになりました。 （新規実行については、平成 27 年度からとなりました）
4 今後の 予定（課題）	研修や営農計画段階から、新規就農予定者・営農指導部門・融資部門が一体となり支援を行っていくことです。